



2021年5月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年3月31日

上場会社名 日本プロセス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9651 URL <https://www.jpdc.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 上石 芳昭
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 財務統括 (氏名) 坂巻 詳浩 TEL 03-4531-2111
 四半期報告書提出予定日 2021年4月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年5月期第3四半期の連結業績（2020年6月1日～2021年2月28日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年5月期第3四半期	5,288	△5.6	510	△2.3	563	0.5	387	3.1
2020年5月期第3四半期	5,603	10.0	522	13.5	560	12.4	375	2.8

(注) 包括利益 2021年5月期第3四半期 409百万円 (△25.4%) 2020年5月期第3四半期 548百万円 (45.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年5月期第3四半期	40.04	—
2020年5月期第3四半期	38.50	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年5月期第3四半期	10,944	9,569	87.4
2020年5月期	11,295	9,396	83.2

(参考) 自己資本 2021年5月期第3四半期 9,569百万円 2020年5月期 9,396百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年5月期	—	13.00	—	13.00	26.00
2021年5月期	—	13.00	—	—	—
2021年5月期（予想）	—	—	—	13.00	26.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2021年5月期の連結業績予想（2020年6月1日～2021年5月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,430	△4.4	570	△21.7	665	△15.4	445	△20.3	46.02

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社（社名）、除外 ー社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料7ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料7ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年5月期3Q	10,645,020株	2020年5月期	10,645,020株
② 期末自己株式数	2021年5月期3Q	968,505株	2020年5月期	988,048株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年5月期3Q	9,668,249株	2020年5月期3Q	9,755,949株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(注) 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、各種政策の効果や海外経済の改善などにより企業収益は持ち直しの動きが見られたものの、新型コロナウイルス感染症の影響により依然として厳しい状況が継続しました。

情報サービス産業におきましては、デジタルトランスフォーメーション(DX)による情報通信技術(ICT)を活用した新たなビジネスモデルの創造や変革などへのニーズが高まっている一方で、新型コロナウイルス感染症拡大による需要の減少など先行きの不透明感から、IT投資の動向については、慎重に見極めていく必要が生じております。

こうした環境の中、当社は、「ソフトウェアで社会インフラ分野の安全・安心、快適・便利に貢献する」を中期経営ビジョンとする中期経営計画(2018年6月～2021年5月)において、獲得事業の主力化と新分野の開拓、持続的成長への投資、トータル・ソフトウェア・エンジニアリング・サービスの継続を基本方針として取り組んでおります。

具体的には、獲得事業の主力化と新分野の開拓としては、前中期経営計画期間中に大きく拡大した自動運転/先進運転支援関連を主力事業化したとともに、建設機械や医療関連のIoT分野について継続して拡大を図っております。持続的成長への投資としては、人材への投資、働きやすい環境や生産設備への投資などを計画的に実施しております。トータル・ソフトウェア・エンジニアリング・サービスの継続としては、ソフトウェアの要件定義、開発から運用・保守までをトータルにサービスすることで、顧客に最大のメリットを提供するという取組みを、顧客を巻き込んだ長期的な取組みとして継続しております。なお、2020年6月よりデジタルトランスフォーメーションの進展に伴い、よりトータルなシステムエンジニアリングサービスを提供することを目的とし、産業・公共システムとITサービスを統合する組織改編を行い、システム開発技術とクラウドシステム構築技術をベースとし、さらなる新分野の開拓に取り組んでおります。

新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた取組みとしましては、ガイドラインを策定の上、従業員及びお客様の健康に十分配慮し、リモートワーク、国内外出張/外出の自粛、Webでの会議/研修などをお客様とともに推進し、サービスレベルを下げることなく、業務を遂行しております。なお、新型コロナウイルス感染症による業績への影響は、当初予想より軽微であり、売上、利益とも計画を上回って推移しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は5,288百万円(前年同期比5.6%減)、営業利益は510百万円(前年同期比2.3%減)、経常利益は563百万円(前年同期比0.5%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は387百万円(前年同期比3.1%増)となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりです。以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組替えた数値で比較分析しております。

(制御システム)

制御システムでは、火力発電所向け監視・制御システムは開発量が増加しましたが、次世代制御ミドルと配電自動化システムは開発量が減少しました。新幹線と海外高速鉄道の運行管理システムは堅調に推移しました。一方で、東京圏輸送管理システムと在来線の運行管理システムは第4四半期に検収されるため、売上は前年を下回りました。

この結果、売上高は807百万円(前年同期比8.7%減)、セグメント利益は209百万円(前年同期比9.1%増)となりました。

(自動車システム)

自動車システムでは、自動運転/先進運転支援関連は旺盛な需要が継続し、車載ネットワーク制御や基盤ソフトウェアなどが堅調に推移しました。また、電動化案件も堅調に推移しました。一方で、車載制御システムのエンジン制御、変速機制御は開発量が減少しました。

この結果、売上高は1,331百万円(前年同期比7.6%減)、セグメント利益は355百万円(前年同期比1.0%増)となりました。

(特定情報システム)

特定情報システムでは、映像監視関連が好調に推移しました。自動運転/先進運転支援関連の画像認識/識別案件は体制を縮小し、危機管理関連は開発量が減少しました。

この結果、売上高は489百万円(前年同期比3.9%減)、セグメント利益は114百万円(前年同期比2.1%減)となりました。

(組込システム)

組込システムでは、ストレージデバイス開発は新たな応用製品開発を受注し堅調に推移しました。新ストレージ開発とIoT建設機械関連は、横ばいで推移しました。自動運転/先進運転支援関連は、ベーシックソフトウェアの開発が終了し体制を縮小しました。

この結果、売上高は797百万円（前年同期比2.5%増）、セグメント利益は175百万円（前年同期比9.1%減）となりました。

(産業・ICTソリューション)

産業・ICTソリューションでは、クラウドシステム構築、イメージングソリューション関連、鉄道関連は堅調に推移したものの、ビジネス関連、医療関連は研究開発費の縮小やシステム開発の終了などで前年を下回りました。また、航空宇宙関連は端境期となったため前年を下回りました。

この結果、売上高は1,862百万円（前年同期比6.4%減）、セグメント利益は359百万円（前年同期比10.5%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(総資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて、351百万円減少して、10,944百万円となりました。この主な要因は、売掛金及び電子記録債権が減少し現金及び預金が増加したものの、賞与支給及び配当金の支払いが行われたことによります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べて524百万円減少して、1,374百万円となりました。この主な要因は、賞与支給及び未払消費税等の支払いが行われた結果、賞与引当金及び流動負債その他が減少したことによります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて173百万円増加して、9,569百万円となりました。この主な要因は、配当金の支払いに伴い利益剰余金が減少したものの、それ以上に親会社株主に帰属する四半期純利益が増加したことによります。この結果、自己資本比率は、87.4%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、2020年7月8日公表の2021年5月期の連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,337,270	2,398,320
受取手形及び売掛金	2,139,849	1,930,055
電子記録債権	1,023,461	847,839
有価証券	701,483	1,399,485
仕掛品	188,086	431,617
その他	81,191	112,192
流動資産合計	6,471,343	7,119,511
固定資産		
有形固定資産	248,764	234,767
無形固定資産	50,084	45,054
投資その他の資産		
投資有価証券	4,123,089	3,140,945
その他	402,320	404,054
投資その他の資産合計	4,525,410	3,545,000
固定資産合計	4,824,258	3,824,822
資産合計	11,295,602	10,944,334
負債の部		
流動負債		
買掛金	99,044	105,904
未払法人税等	108,623	94,602
賞与引当金	997,977	636,854
その他の引当金	31,090	29,220
その他	504,003	348,425
流動負債合計	1,740,739	1,215,007
固定負債		
長期末払金	81,312	81,312
引当金	29,000	31,449
退職給付に係る負債	47,764	46,592
その他	166	166
固定負債合計	158,242	159,520
負債合計	1,898,982	1,374,527
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,487,409	1,487,409
資本剰余金	2,247,802	2,250,481
利益剰余金	5,518,883	5,654,633
自己株式	△598,220	△585,923
株主資本合計	8,655,875	8,806,601
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	749,747	765,007
為替換算調整勘定	△9,002	△1,802
その他の包括利益累計額合計	740,744	763,204
純資産合計	9,396,620	9,569,806
負債純資産合計	11,295,602	10,944,334

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年6月1日 至 2020年2月29日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年6月1日 至 2021年2月28日)
売上高	5,603,547	5,288,508
売上原価	4,345,108	4,073,425
売上総利益	1,258,438	1,215,082
販売費及び一般管理費	735,934	704,569
営業利益	522,504	510,512
営業外収益		
受取利息	14,763	13,872
受取配当金	17,182	19,276
保険解約返戻金	7,570	14,936
その他	8,121	13,185
営業外収益合計	47,638	61,270
営業外費用		
寄付金	1,000	1,000
障害者雇用納付金	2,000	2,350
社用資産除却損	2,250	—
本社移転費用	2,827	—
為替差損	—	3,933
その他	1,934	1,374
営業外費用合計	10,012	8,657
経常利益	560,131	563,125
特別損失		
固定資産除却損	4,092	—
投資有価証券評価損	—	4,062
特別損失合計	4,092	4,062
税金等調整前四半期純利益	556,038	559,063
法人税等	180,457	171,977
四半期純利益	375,580	387,085
親会社株主に帰属する四半期純利益	375,580	387,085

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年6月1日 至 2020年2月29日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年6月1日 至 2021年2月28日)
四半期純利益	375,580	387,085
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	178,246	15,259
為替換算調整勘定	△4,926	7,200
その他の包括利益合計	173,319	22,460
四半期包括利益	548,900	409,545
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	548,900	409,545

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用につきましては、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(税金費用の計算方法の変更)

従来、税金費用につきましては、原則的な方法により計算しておりましたが、当社グループの四半期決算業務の一層の効率化を図るため、第1四半期連結会計期間より連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法に変更しております。

なお、この変更による影響は軽微であるため、遡及適用は行っておりません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I. 前第3四半期連結累計期間（自 2019年6月1日 至 2020年2月29日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					合計
	制御システム	自動車システム	特定情報システム	組込システム	産業・ICTソリューション	
売上高						
外部顧客への売上高	884,059	1,441,397	509,676	777,768	1,990,645	5,603,547
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	884,059	1,441,397	509,676	777,768	1,990,645	5,603,547
セグメント利益	192,468	351,836	117,408	192,497	401,769	1,255,980

	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
売上高		
外部顧客への売上高	—	5,603,547
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—
計	—	5,603,547
セグメント利益	△733,476	522,504

(注) 1. セグメント利益の調整額△733,476千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△735,934千円及びその他2,458千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ. 当第3四半期連結累計期間(自2020年6月1日至2021年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計
	制御システム	自動車システム	特定情報システム	組込システム	産業・ICTソリューション	
売上高						
外部顧客への売上高	807,275	1,331,982	489,731	797,180	1,862,338	5,288,508
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	807,275	1,331,982	489,731	797,180	1,862,338	5,288,508
セグメント利益	209,967	355,524	114,895	175,012	359,453	1,214,853

	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
売上高		
外部顧客への売上高	—	5,288,508
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—
計	—	5,288,508
セグメント利益	△704,341	510,512

(注) 1. セグメント利益の調整額△704,341千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△704,569千円及びその他228千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

システム開発とITサービスを統合し、さらにトータルでのシステムエンジニアリングサービスを提供するために組織改編を行いました。これに伴い、第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更し、従来の「産業・公共システム」及び「ITサービス」を「産業・ICTソリューション」に統合しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分により作成したものを記載しております。